

# 教職課程センターだより 第4号

発行日 2010年2月1日

## 不失正鵠

教職課程センター 大和田 孝士



大和田孝士書

新しい年を迎え、皆さんそれぞれ心新たに期するところがあったことと思います。特に3年生の諸君は学生生活最後の年でもあり、まさに身の振り方を決めなければならない年です。

左の作品は「不失正鵠 正鵠を失わず」と読みます。私が所属する会の「新春小品展」に出品した作品です。

「正鵠」とは弓の的の中央の黒いところ、ねらいどころ、要点のことです。つまり「正鵠を失わず」とは、物事の急所、要点を間違わないことです。

今日の社会は、科学技術の進歩、経済発展と経済構造の変化等が相互に関連しあって、国際化や情報化、高齢化等、多方面にわたって複雑かつ急激な変化が進んでいます。同時にまた、社会の変化によってもたらされた環境問題等も深刻化しています。これらの諸変化は、我々の生活や意識に深い影響を及ぼしていると思います。

そこでは、自己を見失うことなく、自己の在り方を探りながら、社会の変化に主体的に、積極的に対応していくことが求められると思います。

学生諸君には、大学在学中のかなり早い時期から自己の目標を定め、様々の苦悩や幾多の誘惑もあることですが、自己を見失うことなく、まさに正鵠を間違わない、正鵠を得た自己の在り方、生き方をしてほしいと思います。そして見事に正鵠を射てくれることを願っています。



## 教友ゼミ フィールドワーク in 滋賀

社会福祉学部3年 明石 香奈  
同 伊藤 亜沙香

私たちは12月20日（日）に教友ゼミのフィールドワークで滋賀県に行きました。事前に見学場所についてそれぞれ調べ、バスの中で発表しました。参加者は17人と例年よりも少ない人数でしたが、まとまって先生の説明をじっくり聞きながら行動でき、とても実のある楽しいフィールドワークになったと思います。

まず始めに見学した場所は天津博物館です。天津の歴史に関する博物館で昔の天津の町並みの模型や古代津絵など様々なものが展示されていました。学芸員さんの説明を聞きながら見学したのでより理解を深めることができました。

次に博物館から歩いてすぐのところにある三井寺に行きました。ここには「弁慶の引摺り鐘」や「関伽井屋」、「一切経蔵」など興味深い文化財が多くありおもしろかったです。

次は安土城に行きました。前田利家邸跡と羽柴秀吉邸跡や、安土城の石段に使われている石仏などを見ながら、当時の様子を想像して歩くのはとても楽しかったです。かつて天守があった場所に礎石が並べられているのを見たときも、ここに幻の七層もの煌びやかな天守があったのだなと感慨深かったです。そして、一番印象に残っているのはかつて天守跡からの眺めです。当時は琵琶湖が山の麓まで迫っていたようで、今よりもさらに絶景だったのだらうと思います。信長も同じ位置から琵琶湖を見ていたのだらうと思うと感動しました。



安土城本丸跡にて

最後に彦根城に行きました。彦根城は、規模は小さかったですが、今まで見てきたどの城とも違う、いくつもの屋根様式を巧みに組み合わせた美しいものでした。

このフィールドワークを通して、滋賀県は歴史の中で常に重要視されてきた地であることがわかりました。思っていた以上に歴史的な土地や建物がたくさんあります。緑が多く、観光客もあまりいないのでとてもゆったりと静かに歴史の流れを感じながら楽しむことができるとと思います。皆さんもぜひ訪れてみてください。

## ♥ 学校アシスタント体験記 ♥

社会福祉学部4年 北島 さちよ

今、私は成岩中で学習支援のボランティアをしています。学習支援というのは、授業についていけない生徒をサポートすることです。毎回行くクラスは違いますが、授業中にわからないことを生徒と一緒に考えたり、時に授業を離れて生徒とたわいもない話をするなど、学校に行くのが楽しみです。

私は、数学が得意でも社会が得意でもありません。しかし、中学校の教育実習が楽しく「もう一度教育現場に行きたいな!」と思っていました。そんな時に、先生から成岩中の学校アシスタントを紹介され、生徒に関われることが楽しみでボランティアを決意しました。そのため、授業でもわからないことがあり、生徒に教えてもらったり、一緒に考えています。私の教え方が悪くても、真剣に聞いてくれたり、間違いを教えてくれたり、生徒に助けられて活動をしています。

最近、学校で嬉しいことがありました。ある生徒が授業中に問題が解けなくて困っていました。私もその場ではわからなくて、生徒と一緒に考えながら答えを導きました。その授業が終わった後に、生徒が私の所へ来て『ありがとうございました。』と声をかけてくれました。当たり前かもしれませんが、私はすごく嬉しかったです。そして、もっと勉強をして、わかりやすく伝えていきたいと思いました。私は、成岩中で生徒と一緒に学びながら、「わかること」や「学ぶこと」の喜びを体感しています。この活動は、教師をめざす私自身の成長の糧にもなっています。今日も笑顔で頑張ります。

# 教職課程履修学生の集いの感想

1月14日(木)

コミュニティセンター 3Fホール

社会福祉学部社会福祉学科 2年 永井 信一

私は教職課程履修学生の集いに参加し、教員採用試験の勉強方法について多くの事を学びました。今年度教員採用試験に合格した5人の先輩方の話はとても説得力があり、参考になりました。自分が受けた地方の教員採用試験の傾向や、面接内容、いつ頃から教員採用試験の勉強を始めたなどの体験談を話してくれました。また、勉強していく上で大切なのは同じ教員を目指す仲間だと言っていました。勉強でわからないことを聞くだけでなく、面接の練習や相談目標の再確認、勉強の息抜きの会話など、友人が大きな支えになるとも言っていました。話を下さった5人の先輩は全員一緒に面接の練習などをしたそうです。私は静岡の特別支援学校の教員を希望しています。今回学んだことを活かし、これからの生活に取り組んでいきたいと思います。まずは自分が何故特別支援学校の教師になりたいのか改めて考えることから始めたいと思います。そして今度は先輩方のように次の教員を目指す人達に少しでも役に立つ話ができるように頑張っていきたいと思います。この場を借りて今回すばらしい話を下さった5人の先輩にお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。



福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 3年生 古池彩香

採用された先輩方の報告では、どのような内容で採用試験が行われたかや勉強の仕方等でした。ボランティア活動、教育系の雑誌や岩波書店の本等を読んだりして、多くの経験を積んで置くことが必要であると思いました。今のうちから自分の伝えたいことを相手にどのように伝えたら良いかを考え、自己分析をしたりする必要があったと思いました。先輩方の報告では、実際に採用試験を受けた人数の報告もありためになりました。面接対策をすることや採用試験の対策をするときは、1人ではなく仲間を作ることが大切であるといわれました。仲間と一緒に勉強することにより1人ではないから続けられると思いました。今回の報告を聞いてとてもためになりました。来年は、自分も報告できるように頑張りたいと思いました。



## 第3回教育実践交流会報告

1月16日（土）、半田雁宿ホールにおいて第3回教育実践交流会が開かれました。

交流会には、卒業生7名、大学側（教職員・学生）28名の計35名が参加し、中身は講演、実践報告を柱とする内容でした。午前は、教職課程センターの松下孜先生による「現代の子どもたちと教育の課題」と題する講演が行われました。学閥の力が強い愛知の学校現場にあって、松下先生は、「出世はしない」「自分の欠点を見せながら、それを克服する努力を子どもに見せる」という姿勢を堅持し、先生ご自身が歩んでこられた教員生活の経験・実践を、時々のエピソードや体験談、推薦図書を紹介などを交えながらのお話でした。午後は、小学校、中学校、高校などの現場で活躍されている卒業生7名の方から、「小学校1年生の国語指導」、「総合学習「うんち探検隊」の授業実践」、「小学校における指導実践」、「中学校の発達障害通級指導」、「高校福祉科現場での取り組み」などが報告されました。交流会で報告・討論された内容は、教育諸学会のこの種の企画と比べても遜色のないもので、伊勢田構想の「日本福祉大学教育学会」に近づくものでした。

この会は、伊勢田・磯部ゼミを中心としたOB会として発足した経緯があり、OB会的性格の強いものですが、この会のもつ役割や意義の大きさを考えると、早急に教職課程センター全体の取り組みとすることが求められます。

そのためにも、現在の会の持ち方や問題点など洗い出し、教職課程センターとして制度上どのように位置づけるかを明確にし、学内学会として構想・実現することが重要です。当面の課題としては、卒業生名簿の整理、事務局設置や運営組織の整備、財政基盤の確立などが急がれます。後輩のためにとボランティアで来て下さる先輩諸氏に、交通費や講師謝礼などの措置が必要です。教員の成長にとって先輩諸氏の存在・役割には大きなものがあります。教職課程センターの機能充実の面からも「人のネットワーク」づくりが重要です。（文責 高須）



報告される卒業生のみなさん

### お知らせ

3月27日（土）4限（子ども発達学部以外）及び3月29日（月）3限（心理臨床学科のみ）の教職オリエンテーションは、新2年生対象のオリエンテーションです。

新3年生・4年生は、4月にオリエンテーションを行いますので、来年度の時間割を参照ください。